写真に見られるごとくしてオデルカカメラにより70×70cmの間接の回転横断撮影が行なえ、その診断的意義も極めて高い。

6) E. Zieler : Der Amplimat, ein Belichtungsautomat für allgemeine Röntgenographie
382-393

一般撮影用自動露出調整機—アンプリマート

382~393頁

ドイツのX線装置メーカーの一つである C. H. F. Müller の新製品の紹介をかねた論文でドイツにはすでに数年前にシーメンスからイオントマートが出ている。これもうすい電離槽をカセットの前においてその電離電流によってX線開閉器を働かせる方式であるが、いくつか特徴をもっている。

まずX線撮影では1枚のフィルムについてみれば黒化度の大きく異なった部分があり、診断上はある特定の部位の黒化度が特に大切である。たとえば頭蓋撮影では人体を通らず直接X線が当たってフィルムの真黒になる部分があることが多いがこの部分の黒化は全く診断上意味がないまた胸部では肺を問題にする時と胸椎を対照にする時とでは一定の黒化度を要求する部位が異なる。しかしまた問題になる部位でもなお黒化は一樣でないからその

写 真 1

平均として考えなければならない。これらのことから測定器を撮影の目的に応じてフィルムの適当な場所におけることとその適当な大きさが大切になる。このためにアンプリマートで写真1のように中央とそれから離れたところの3カ所にそれぞれ直径8cmの電離槽があり、それを適当な組合わせでコントローラーで操作して働かせることができる。たとえば写真2, 3はそれぞれ黒丸の位置の電離槽を働かせたことを示している。

写 真 2

写 真 3

なおこのほかX線遮断の時間おくれが少なく0.01秒の撮影まで可能であり、線質依存性も一定の増感紙に対してはほとんどなく40~120kVまで一様であるなどの優れた点がある。

7) A. Ruttimann : Eine einfache Methode zur Verbesserung der Steissbeinaufnahme

尾閼骨撮影の簡単な改良法 511~514頁

尾閼骨の特別の撮影法としては今までに Sabat の Retroradiograph という肛門からフィルムをまいて直腸に入れそこでひろげて背腹にとる方法が発表されているだ

Abb. 2

1. 焦 点
2. ゴ ム 風 船
3. 尾 閭 骨
4. フ ィ ル ム

けである。もっと簡単な方法として図のようにゴム管の先にゴム風船をつけそれを直腸に入れてからふくらし腹背に撮影すると腸の重積像もなく骨梁も極めてよく現われる。写真の左は普通の単純撮影で右はこの方法によったものである。

8) B. Rossmann : Einfache röntgenologische Aufnahmetechnik des Säuglingsohres 741-748

乳児耳科領域の簡単なX線撮影法
741~748頁

乳児では耳のX線撮影はあまり行なわれていないが、もし正確に行われるならばこの年齢に多い炎症の場合など大変に役立つであろう。乳児では撮影の場合教科書にあるような頭の位置は大変とりにくいので自然のままの腹臥位の頭の位置を使って撮影を行って好結果を得てい

Abb. 2

Abb. 1

る。姿勢は図に示す通りで腹臥位にねかせた時の姿勢に一寸手をかせばよい。家族の者にでも軽く固定させるだけで麻酔などは必要でない。照射筒は軽く頭をおさえて固定を助ける。左右をかえて1枚のフィルムにとるようにすると容易に対称のものがえられる。